簡単に「一件落着」橋下流の真実

大阪市の教育委員会が、橋下市長が提案した暴力など問題行動を起こす児童・生徒を小中学校から隔離して市が新たに設ける「個別指導教室」に集めて指導する案をまとめた。

問題児をさっさと送れ

橋下市長は「問題のある生徒の行為によって、まじめにやろうとしている生徒がばかを見てはならない」と云う。つまり、何か問題が起きたら「問題児を見つけ個別指導教室に送り、さっさと一件落着せよ」と云う訳だ。

問題は人と人の間で

「問題児」と云うが「問題」を一人で起こすことは出来ない。教師や他の児童との間に問題は生ずるのだ。問題児とその周りに問題の根があるのだ。

それは、人と人との関係を丁寧に解きほぐして解決できる。少人数学級として、教師の目が全ての生徒に目がとどくようにしたり、雑事から教師を解放して生徒と触れ合う時間を十分保証するのが本筋。

橋下流では

橋下流では生徒は自分が「問題児」にされないように萎縮し、教師の顔色ばかり窺う。上手く立ち回る子は誰かを「問題児」にしてしまう。一方、教師は逆らったら「問題児」だぞと脅す。

こんな教室で育ったら、人と人との温かい人間関係は育たない。殺伐とした社会になるのではないか？

皆さんはどう思われますか？

井戸のある路地

東京都港区　高輪

港区にお住まいの方から紹介していただき、港区のあちこちの路地を歩いた。

ＪＲ品川駅で山手線の内側におりるとプリンスホテルなど豪壮な建物に圧倒される。

しかし、港区にもごく普通の住民の生活があるのだ。観光地「横浜」に住む我々の生活があるように。

泉岳寺の門の右手、高輪中学校・高等学校との間に幅一ｍ位の細い路地がある。二、三分おきに人が通る。そこを進むと、古くからの住民の生活の息吹が感じられる。

そんな路地の一隅に井戸があり、手こぎポンプがあった。日常的には、家の周りの草木に水をやるのに使うのだろう。今日も使ったという感じがした。

又、震災など非常時に水道が止まったとき、住民の生活を支えるのだろう。